

シンポジウム

ポストネオリベラル期のラテンアメリカ政治—現状と課題—

2015年6月22日(月) 13:30～18:00

上智大学中央図書館棟9階921会議室

主催：上智大学イベロアメリカ研究所、京都大学地域研究統合情報センター 後援：ラテンアメリカ協会

過去30年間、ラテンアメリカ諸国は、国家社会関係のあり方について模索を続けている。1970年代までの約半世紀は、輸入代替工業化を中心とする国家主導の経済開発に代表される「国家中心モデル」が支配的であった。同モデルは1970年代までに破綻し、1980年代からは、グローバル化の進展を背景にネオリベリズムへの転換が図られ、国家の役割を縮小させる「市場中心モデル」が基調となった。しかし、「市場中心モデル」のもとでは、マクロ経済レベルの安定と発展は可能となったものの、歴史的、構造的にラテンアメリカ諸国が抱えてきた格差や貧困を克服するまでには至らなかった。そのため、1990年代末以降、ネオリベリズムの見直しを求める勢力が台頭し、多くの国で政権を握る「左傾化」現象が観察されてきた。ネオリベリズムが支配的であった時期は過ぎたという意味で、現在のラテンアメリカはポストネオリベリズム期にある。

本シンポジウムは、ラテンアメリカにおけるネオリベラル改革後の政治展開において、政党政治が安定的な事例と不安定なケースの相違に焦点を合わせる。それぞれについて、いくつかの代表的な国を取りあげ、近年の政治動向ならびに現状を分析するとともに、今後の展望を描く。安定的ないし安定化した例として、ブラジル、メキシコ、チリ、不安定な国としてコロンビア、ベネズエラ、ペルーをみる。(参考文献：村上勇介編『21世紀ラテンアメリカの挑戦—ネオリベリズムによる亀裂を超えて—』CIAS叢書〈地域研究フロンティア〉5、京都大学学術出版会、2015年)

—PROGRAM—

13:00	登録
	開会の挨拶
13:30～13:40	上智大学イベロアメリカ研究所長 幡谷 則子 京都大学地域研究統合情報センター長 原 正一郎
	趣旨説明
13:40～14:00	「今世紀のラテンアメリカ政治—ネオリベリズム期以降の政党政治を中心に—」 村上 勇介 (京都大学地域研究統合情報センター)
14:00～15:15	第1部 安定的な政党政治とその課題
14:00～15:15	「近年のブラジル政治における二大政党化への収斂と『幸運な自由化』の反転」 舛方 周一郎 (神田外語大学外国語学部)
14:00～15:15	「三大政党制の融解?—近年のメキシコ政治にみるPRDの危機と左派再編の可能性—」 馬場 香織 (日本貿易振興機構アジア経済研究所)
14:00～15:15	「形骸化の進むチリの民主主義—硬直した政党政治と投票率の低下—」 安井 伸 (慶應義塾大学商学部)
15:15～15:30	休憩
15:30～16:45	第2部 格差や紛争に直面する民主主義
15:30～15:55	「ポストネオリベリズム期のコロンビアにおける政治の不安定化—国内紛争と和平プロセスの視点から—」 千代 勇一 (上智大学イベロアメリカ研究所)
15:55～16:20	「チャベスなきチャビスモ—権威主義化を強めるベネズエラ・マドゥロ政権—」 坂口 安紀 (日本貿易振興機構アジア経済研究所)
16:20～16:45	「小党分裂化するペルー政治」 村上 勇介
16:45～17:00	休憩
17:00～18:00	コメント・討論
17:00～17:20	コメント 岡本 正明 (京都大学東南アジア研究所) 幡谷 則子
17:20～17:55	討論
17:55～18:00	閉会の挨拶 村上 勇介